



2020.7.1 NO.13
保育室 すまいる

<月のテーマ：遊びこむ>

年齢別 月の保育のねらい

<0歳児>

- 食事・睡眠を十分にとり、健康に過ごす。
- 友だちが歌っている歌に興味を持ち一緒に楽しむ。

<2歳児>

- できた喜びを味わいながら、身の回りのことを意欲をもってやろうとする。
- 保育者の関りによって自分の思いを知る。

<3歳児>

- 夏の自然事象や生き物に興味や関心を持つ。
- 好きな遊びを心ゆくまで楽しむ。

<4歳児>

- 好きな遊びを繰り返し楽しみ、工夫したり探求したりする楽しさを味わう。
- 気の合う友だちと遊ぶ中で自分の思いを伝え、共感しながら遊びを楽しむ。

<5歳児>

- 友だち同士で活動することで、自分の居場所を確認し、安心する。
- 好きな遊びを深めながら、生きものや友だちとの交わりが楽しくなる。

<学童>

- 学校から保育室すまいるに移動してくる中、季節の変化を感じ、触れる。自分で体調管理をする。



<7月の歌>

おばけなんかいないさ

<自然の変化を感じながら>



子どもたちには、季節の移り変わりを自然を通して感じてほしいと思いながら、保育を進めています。お茶会には、保育者の自宅近くに咲いているお花を持参してそのお花の紹介をしています。三十人町中央公園にお散歩に出かけた時は、フキを見つけ、「傘みたい」と大きな葉っぱのフキをとり、傘のようにさして歩いたり、フキをとって、保育室に持ち帰り、フキのすじむきをしてから“きゃらぶき”にして食べました。

交通公園に向かう道々では、はこべ・よもぎ・たんぽぽはもちろん、今回は、“桑の実”を見つけて、食べました。最初は、不思議そうな顔をして食べていましたが、黒い色の桑の実の方が美味しいことがわかり、黒くなっている桑の実を見つけては食べました。自分たちの生活圏内で梅雨に咲くお花探しをしたり、虫探しをしたり、食べられる草を探して楽しんでいきます。日常生活で自然に気持ちが向く生活をしていると、お散歩していると、「これ、食べられる?」「この草してる。」「この虫なんだろう?」と保育者が声を掛けなくても自分たちで積極的に見つけていきます。究極、災害が起こって食べるものがなくなっても食べることができる草を知っているのです。草を探してたべることができます。草を食べる経験がないと、急に食べなさいと言われても、なかなか食べることはできません。知っていること、経験していることは、生きる力の術として蓄えられ、糧となっていきます。子どもたちと生きる力を育ちあいたいと思います。